

2023

11 NOV.

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 77

2▶ 呼吸器内科紹介

4▶ 呼吸器外科紹介

6▶ 眼科紹介

立川病院 だより



呼吸器内科紹介

当科は常勤医6名に防衛医科大学校からの非常勤医員1名が加わり、肺がん・呼吸器感染症・びまん性肺疾患など呼吸器疾患全般の診療を行っています。また急性期病院としての地域医療貢献と若手の人材育成をモットーにしています。院内では呼吸器外科や放射線診断科、放射線治療科等の関連各科と協力し最新の医療を提供できるよう心がけています。

各医療機関からの依頼はできる限り速やかに対応いたしますので、地域医療連携センターまでご連絡いただければ幸いです。

診療体制について

外来は、新型コロナウイルス感染症流行中から通常通りの専門外来（月～金）に加え、初診枠を設け、ご紹介いただく患者さんが速やかに受診できるよう診療を継続しています。緊急性が高い場合には、地域医療連携センター経由で対応させていただきます。

専門的診療や緊急治療を要する患者さんの入院対応は、急性期病院としての使命であり、当科では年間850～1,000名の入院診療を行なっています。日常的には、30名前後の入院患者さんの診療を行い、多職種連携の病棟カンファレンスや専門科合同カンファレンスで情報共有を行い、適切な医療提供に努めています。

検査は、気管支鏡検査を週2回（火・木）実施しています。肺癌、びまん性肺疾患、感染症診断の他、気胸に対する治療目的での内視鏡検査を行っています。また睡眠時無呼吸症候群に対するポリソムノグラフィ検査を週1回（水）実施しています。正確な診断とCPAP適応を検討することを目的としています。

診療内容について

呼吸器内科では、腫瘍、呼吸器感染症、びまん性肺疾患、アレルギー性疾患、慢性閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群など呼吸器に関連する疾患全般に対応しています。

主な対象疾患は以下の通りです。

- 腫瘍性疾患**：原発性肺癌、転移性肺癌、肺カルチノイド、良性腫瘍など
- 呼吸器感染症**：細菌性肺炎、結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症、COVID-19を含むウイルス性肺炎など
- びまん性肺疾患**：特発性間質性肺炎、二次性間質性肺炎、薬剤性肺炎など
- アレルギー性疾患**：気管支喘息、好酸球性肺炎、アレルギー性気管支肺真菌症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）など
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）**
- 睡眠時無呼吸症候群**



間質性肺炎専門外来

2023年5月より間質性肺炎専門外来を新たに開設しました。月曜午後に船津医師が担当しています。お問い合わせや予約は地域医療連携センターへご相談下さい。

医師紹介

黄 英文 (こう ひでふみ)

診療部長・内科統括部長・呼吸器内科部長・
感染制御部部长
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門
医・指導医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医
日本アレルギー学会 アレルギー専門医・
指導医
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医・
指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
インфекションコントロールドクター

船津 洋平 (ふなつ ようへい) 内科医長
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・
指導医

日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医
日本感染症学会 感染症専門医
インフェクションコントロールドクター

福井 崇大 (ふくい たかひろ) 内科医長
日本内科学会 認定内科医・指導医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

光石 彬史 (みついし あきふみ) 内科医員
日本内科学会 認定内科医・指導医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医



間質性肺炎専門外来を 開設しました

- ▶ 間質性肺炎の専門外来を新たに開設しました。間質性肺炎に対し、より専門的な診療を提供し、患者様の健康をサポートするために開設いたしました。
- ▶ 間質性肺炎は、肺の間質という組織に炎症が起こる病気です。その症状は、初期には咳嗽や労作時呼吸困難と非特異的であり、見過ごされることもある疾患です。特異性肺線維症を含む進行性線維化を伴う間質性肺疾患は進行を遅らせる治療がありますが、早期の診断治療開始が重要です。
- ▶ 私たちは、間質性肺炎の診療経験豊富な専門医を中心に、最新の診療ガイドラインに基づいた高度な診断と治療を提供しています。
- ▶ 患者様のご紹介をよろしくお願いたします

診療医師：呼吸器内科 船津洋平

診療日：毎週月曜日 午後

* 緊急時は、従来通り速やかに対応させていただきます



予約方法：外来予約センターで承ります

電話番号：042-523-3856 FAX：042-512-7683

ご質問やお問い合わせ・緊急の場合：

地域医療連携センターまで、お気軽にお問い合わせください
電話番号：042-524-2438 FAX：042-523-3160

受付時間：月～金8:30～17:00 第2.4土曜日8:30～12:00

柿本 知勇 (かきもと ともお)
内科医員

溝部 政仁 (みぞべ まさひと)
内科医員

原田 小春 (はらだ こはる)
非常勤医員



呼吸器外科紹介

診療体制、内容

呼吸器外科は常勤医師2名と非常勤医師2名の体制で診療を行っています。

手術症例全ての患者さんについて多職種による診療カンファレンスを実施して、診断や治療方針について入念に検討し、各種ガイドラインに則って個々の患者さんのご病状やご意向に沿った最善の診療を実施できるように臨んでいます。また、幅広い診療科を有する当院の強みを生かして、呼吸器内科や放射線診断科、放射線治療科をはじめ、他診療科と緊密な連携を取り、最適な治療を提供しています。手術方法も低侵襲手術を中心に、必要に応じて拡大手術にも対応しています。昨年度より手術ロボット「ダビンチ」による手術も導入し、安定した成績を上げています。

診療実績

2022年1月～12月の実績は下記の通りです。

- 原発性肺悪性腫瘍 88
 - 転移性肺腫瘍 29
 - 縦隔腫瘍 12
 - 胸膜胸壁腫瘍 3
 - 炎症性肺疾患（非結核性抗酸菌症など） 9
 - 膿胸 6
 - 気胸 24
 - 肺瘻、気管支瘻、肺分画症、肺動静脈瘻、重症筋無力症、その他 22
- 総計 193 （うち胸腔鏡下手術（ロボット手術を含む）166）

ロボット支援胸腔鏡下手術

当科の特徴のひとつと言えるロボット手術について、あらためてご紹介したいと思います。

米国製手術支援ロボットda Vinci®を使用した胸腔鏡下手術（Robot Assisted Thoracic Surgery：RATS）は、わが国でも2018年に保険収載となり、徐々に導入施設が増えてきました。RATSは、術者がコンソールに着座して患者さんに装着されたロボットアームを遠隔操作し、アームに装着された高性能の胸腔鏡や各種デバイスを操作して手術を行います。助手の医師は、通常の手術と同様患者さんの傍らで術者の操作をアシストしたり、デバイスの交換や装着を行います。術者は高精細な3D画像を見ながら、あたかも患者さんの体内に自らが入り込んで手術するかのような精緻な手術操作が可能となり、手術の安全性向上と時間の短縮が期待できます。一方で、術者・助手、手術室看護師や臨床工学技士は独特なトレーニングを受けて認証を取得する必要があるため、麻酔科医も含めて、システムの取り扱いと緊急時の対応に習熟している必要があります。すでに北米では広く取り入れられている手術法ですが、我が国においては高額な導入費用とも相まって呼吸器外科分野への普及は遅れています。当科は豊富な胸腔鏡下手術の実績があり、RATSをスムーズに実施する環境がすでに整っていたため、当院に最新型のロボットda Vinci Xiが導入されたのに合わせ、昨年4月よりRATSを開始することができました。現段階で

70例余に実施して安定した実績を積んでおり、これからも当科の主力術式の一つとして、患者さんに提供してゆきたいと思います。

患者さんは多くの不安を抱えて受診されることと思います。私共は常にわかりやすく丁寧な説明に努め、患者さんが少しでも不安なく過ごせるよう努めてまいります。小さな疑問でもどうぞお気軽に担当医までお尋ねいただければと思います。

これからも当院の総合力を生かし、患者さんに最適な治療、手術を提供させていただきますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

医師紹介

山本 達也 (やまもと たつや) 部長
日本外科学会 専門医
日本呼吸器外科学会 専門医
日本胸部外科学会 認定医
日本呼吸器内視鏡学会 専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
慶應義塾大学医学部 外科学 (呼吸器) 非常勤講師

木下 智成 (きのした ともなり) 医長
日本外科学会 専門医
日本呼吸器外科学会 専門医
日本呼吸器内視鏡学会 専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

杉野 功祐 (すぎの こうすけ) 非常勤医師
渡邊 真祥 (わたなべ まさよし) 非常勤医師



渡邊 (非常勤医師) 山本 (部長) 木下 (医長)

眼科紹介

眼科は現在、常勤医4名、視能訓練士3名の体制で診療を行っております。

外来診療では三次元画像解析装置（OCT）を使用して網膜黄斑部や視神経の形状を調べることによって、黄斑の病変や自覚症状に乏しい早期の緑内障の診断を行っております。そのほか、増殖糖尿病網膜症や網膜血管閉塞に対しては蛍光眼底造影を、原因不明の視機能障害に対しては視野検査や頭部MRI検査による精査を適宜行っております。

当院での手術治療は、白内障、糖尿病網膜症、黄斑前膜、硝子体出血、裂孔原性網膜剥離、黄斑円孔、緑内障などが中心となっております。白内障手術、硝子体手術、緑内障手術は入院手術で行っており、全身疾患のある方でも安心して手術を受けていただけます。日帰り白内障手術には今のところ対応しておりません。

診療内容について

・白内障手術

白内障手術は近年、眼内レンズの種類や性能の向上、手術装置や検査機器の進化、小切開手術の普及などにより、安全性や治療効果が高まりました。白内障手術は患者さんの視力回復や生活の質の向上に大きく貢献しており、当院ではこの1年間で750例以上施行しております。最近の新たな試みとしては、従来よりも精度の高い眼内レンズ計算式を取り入れるとともに、最新の眼内レンズを複数取り揃え、それぞれの患者さんのニーズに合った最適な眼内レンズを選択することで、裸眼視力の向上に努めております。眼内レンズは単焦点眼内レンズが中心となりますが、眼鏡の依存を少しでも減らせられるように、乱視を軽減するトーリック眼内レンズや、保険診療で使用可能な多焦点眼内レンズ（2焦点眼内レンズ）にも対応しております。

・硝子体手術

硝子体手術は、眼のなかの硝子体と呼ばれる透明なゼリー状の組織を除去し、網膜硝子体の病気を治す手術です。近年は手術器具が細くなることで傷口が小さく済むようになり、早期の視力回復を見込めるようになってきました。また精密にコントロールされる灌流圧供給システムにより、安全で確実な手術が可能になっています。当院では痛みの少ない局所麻酔（経テノン球後麻酔）を導入し、患者さんの負担の少ない治療を心がけて、糖尿病網膜症、黄斑前膜、硝子体出血、裂孔原性網膜剥離、黄斑円孔をはじめとする網膜硝子疾患に対して極小切開硝子体手術を年間100件程度施行しております。

また抗VEGF薬の硝子体内注射を必要とする滲出型加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、糖尿病黄斑浮腫、近視性脈絡膜新生血管につきましても、最新のものを含む複数の薬剤を院内採用し、患者さんの医学的・社会的背景を考慮しつつ、最適な治療を提案させていただいております。

そのほか感染性ぶどう膜炎を疑う症例に対しては前房水を採取して感染性ぶどう膜炎マルチスクリーニング・PCR検査（自費）を積極的に施行することで原因検索に努めております。この1年間ではサイトメガロウイルス網膜炎2例、サイトメガロウイルス虹彩毛様体炎1例の確定診断に至り適切な治療につながっております。

・緑内障手術

複数の緑内障の目薬を使用しても眼圧が十分に下がらない、あるいは視野欠損が拡大するときには緑内障手術の適応となり、当院では年間10例前後の濾過手術（トラベクトミー）のほか、血管新生緑内障などの難治例には緑内障インプラント手術（アーメド®）を行っております。また、緑内障患者さんの受診が増えていることを受けて、手術侵襲が少なく負担の軽い最新のマイクロシャント（緑内障ドレナージシステム）（プリザーフロ®）を年内に導入できるように準備を進めております。

・当科で行っているそのほかの主な手術

霰粒腫切開術、眼瞼・結膜腫瘍切除術、翼状片切除術など

・当科で行っていない手術

眼窩底骨折（眼窩壁骨折）、眼瞼下垂、眼瞼内反症、一部の眼瞼腫瘍は当院の形成外科へ治療を依頼しております。ほか、角膜移植が必要な患者さん、眼窩内腫瘍、涙小管断裂、鼻涙管閉塞（流涙症）は大学病院あるいは近隣の専門クリニックへご紹介しております。また小児の斜視手術には対応しておりません。

当科での取り組み

術後回診を週3回、カンファレンスを週1回行っており、術前症例や問題症例についての共有とディスカッションを行っております。

連携施設について

慶應義塾大学病院、杏林大学医学部附属病院（杏林アイセンター）と連携しております。

最後になりましたが、眼科のポリシーとしては、患者さんを中心とした医療を心がけるとともに、3S (Safe, Satisfactory, Specialized) medical care、すなわち、安全な医療、患者さんおよびスタッフの満足度が高い医療、科学的根拠と医学的エビデンスにもとづいた質の高い医療を目指しております。立川病院で手術を受けて良かった、と患者さんに思っただけのような医療を提供できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

医師紹介

内田 敦郎（うちだ あつろう） 部長

日本眼科学会 専門医・指導医
光線力学療法（PDT）認定医
慶應義塾大学医学部眼科学教室
特任講師（非常勤）

森川 幹郎（もりかわ みきお）

医員
日本眼科学会 専門医

野地 将（のじ しょう）

医員

横溝 真由美（よこみぞ まゆみ）

医員



左から野地 内田（部長） 森川 横溝



ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和5年11月1日（年6回）
発行者：立川病院地域医療連携センター
編集者：片井均、風間友子

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

地域医療連携センター

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160